

## 再評価結果（平成27年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

<b>事業名</b> 一般国道175号 <small>にしわききた</small> 西脇北バイパス	<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 国土交通省 近畿地方整備局
<b>起終点</b> 自：兵庫県西脇市下戸田 <small>にしわき しもとだ</small> 至：兵庫県西脇市黒田庄町大伏 <small>にしわき くらだしょうちようおおふし</small>	<b>延長</b> 5.2km	
<b>事業概要</b> 一般国道175号は、兵庫県明石市から東播内陸地域を経由して京都府舞鶴市に至る主要幹線道路である。西脇北バイパスは、東播丹波連絡道路の一部を形成し、西脇市域における国道175号の交通混雑の緩和、交通安全の確保、地域のアクセス改善等を目的に計画された道路である。		
H9年度事業化	H10年度都市計画決定 (H-年度変更)	H12年度用地着手
H18年度工事着手		
<b>全体事業費</b>	約400億円	<b>事業進捗率</b> 42%
		<b>供用済延長</b> ー
<b>計画交通量</b>	20,100台/日	
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B/C</b> (事業全体) 1.1	<b>総費用</b> (残事業)/ (事業全体) 223/423億円
	(残事業) 2.0	<b>総便益</b> (残事業)/ (事業全体) 450/450億円
	事業費：182/382億円 維持管理費：41/41億円	走行時間短縮便益：410/410億円 走行経費減少便益：31/31億円 交通事故減少便益：9.8/9.8億円
<b>感度分析の結果</b> 【事業全体】交通量：B/C=0.9～1.3(交通量±10%) 事業費：B/C=1.02～1.1(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.03～1.1(事業期間±20%) 【残事業】交通量：B/C=1.7～2.4(交通量±10%) 事業費：B/C=1.9～2.2(事業費±10%) 事業期間：B/C=2.0～2.1(事業期間±20%)		
<b>事業の効果等</b> ①交通混雑の緩和 ・上戸田南交差点では、著しい渋滞が発生しており、渋滞解消による交通の円滑化が期待される。 ②交通安全の確保 ・事故の約7割以上は追突事故となっている他、歩道未設置区間が全体の6割を占めており、通過交通の転換による安全性の向上が期待される。 ③地域のアクセス改善 ・丹波市～西脇市までの所要時間が短縮され、丹波地域と東播地域のアクセスが向上。西脇市立西脇病院は丹波市から脳外科、整形外科などの救急患者を受け入れており、整備によって所要時間の短縮や走行性の向上による救急医療の支援が期待される。 ④日常活動圏中心都市へのアクセス向上 ・西脇市立会館コミュニティーセンター黒田庄地区会館～加古川市への所要時間が短縮(69分→60分) ⑤主要観光地へのアクセス向上 ・沿線へのアクセス向上により、観光客の増加が期待される。 (日本へそ公園：観光客入込数：2.1万人/年(H24))		
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 地域から頂いた主な意見等： ・平成25年11月、一般国道175号整備促進期成同盟会(S41.10設立、西脇市、神戸市、三木市、小野市、丹波市、加東市の市長及び議長)より早期整備の要望を受けている。 ・平成26年1月、西脇バイパス整備促進協議会(H6.8設立、西脇市津万地区各町において選出された者)より早期整備の要望を受けている。 兵庫県知事の意見： 一般国道175号西脇北バイパスは、中国自動車道滝野社ICと北近畿豊岡自動車道氷上ICを連絡する地域高規格道路「東播丹波連絡道路」の一部を形成する重要な道路である。 当該区間の国道175号現道は、2車線で、交通容量(約14,850台/日)を大幅に上回る約20,000台/日の交通量があり、西脇市中心部への入口となる上戸田南交差点では、夕方の通勤時間帯に最大約500mの渋滞が発生していること。		

6割の区間において歩道が未整備であり、歩行者や自転車が危険な状態にあること等から、交通混雑の緩和、安全性の向上を図る西脇北バイパスの早期整備が喫緊の課題となっている。

また、沿線には、地域の豊かな自然や歴史文化、さらには伝統産業など、有形・無形の地域資源を博物館のサテライトとして展示する「北はりま田園空間博物館」の総合案内所があり、観光振興・地域振興の観点からも不可欠な道路であるため、沿線市からも早期完成の強い要望がある。

こうしたことから、安全で円滑な交通確保と地域の活性化に資する本バイパスの事業推進に、引き続き取り組んでいただきたい。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、「一般国道175号西脇北バイパス」の再評価は、当委員会に提出された資料、説明の範囲において、おおむね適切に進められており、対応方針(原案)のとおり「事業継続」でよいと判断される。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

国道175号の交通量は横ばいであるが、依然として交通容量を超過している。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成9年度に事業化、用地進捗率93%、事業進捗率42% (平成26年3月末時点)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き事業を推進し、早期の開通を目指す。

施設の構造や工法の変更等

事業の実施にあたり、新技術・新工法の活用等によりコスト縮減に努める。

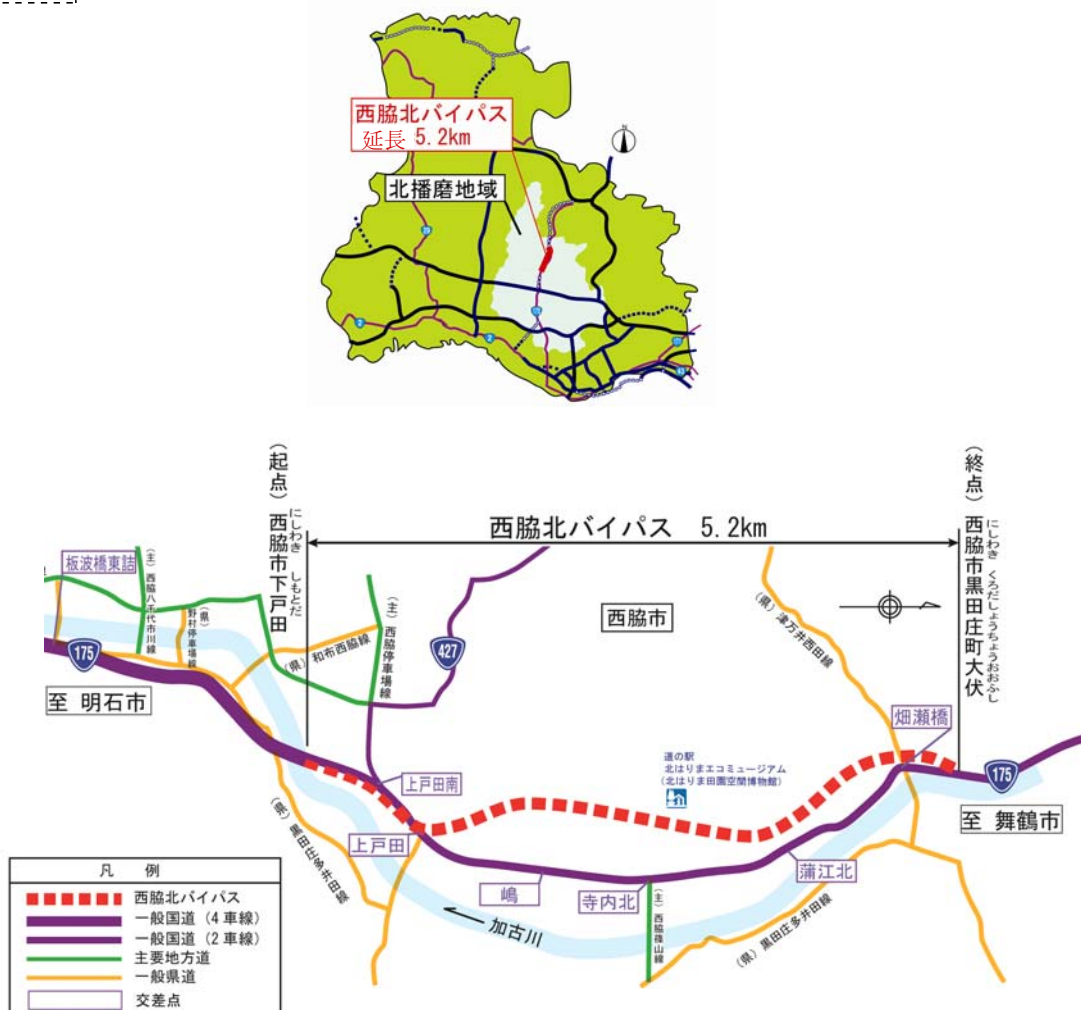
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。